



新・みやぎ・シー・メール第7号

発行：平成30年9月6日

宮城県水産技術総合センター 〒986-2135 宮城県石巻市渡波字袖ノ浜 97-6

TEL: 0225-24-0159 FAX: 0225-97-3444

どうなる今年のサンマ？

環境資源チーム

不漁となった昨年のサンマ漁

秋の味覚と言えばサンマですが、昨年の全国の水揚量は約8万トンに止まりました。サンマ漁が発展した1960年以降では約半世紀ぶりの大不漁となり、新聞やニュースでも話題となったのは記憶に新しいところです。1960年以降、3年続いて15万トンを下回る不漁となったのも初めてでした。さらに昨年は小型でやせたサンマが多く、脂ののったおいしいサンマが少ない年でした。

今年のサンマ水揚量と大きさ

サンマは日本近海だけではなく、北太平洋の亜寒帯から亜熱帯域に広く分布していますが、秋に日本の沿岸にやってくるのは、主に図1に示す1区、2区に分布するサンマと考えられています。毎年6～7月にかけてこれらの海域に分布するサンマの調査を国立研究開発法人水産研究・教育機構が実施しています。この調査海域のサンマが多いか少ないかで日本沿岸で漁獲されるサンマの量を推定することができるのです。今年の調査では1区と2区に分布するサンマの量は昨年の約2.5倍となり、昨年を上回る水揚げになると予測されています。本格的な水揚げが開始された8月の全国の水揚量は9,150トンと昨年の1.5倍となっており、好調なスタートとなっています。

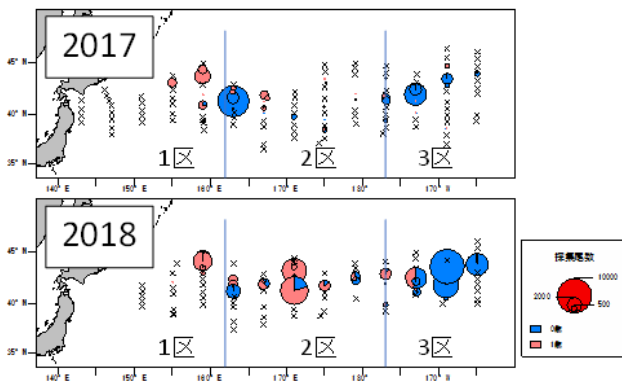


図1 6～7月に実施したトロール調査によるサンマ分布状況(国立研究開発法人水産研究教育機構※)

また、6～7月の漁期前調査で漁獲された今年のサンマは、29cm以上の大型の魚(1歳魚)が多く、平均体重も大きくなっていました。このため、今年は脂ののった太ったサンマが多いと予想されています。女川魚市場に水揚げされた昨年9月と今年8月のサンマの体重を図2に示しました。今年のサンマは昨年よりも体重が大きく、水揚げだけでなく魚体についても予測のどおりの結果となっています。今年は安くて脂ののったおいしいサンマがたくさん食べられそうです。

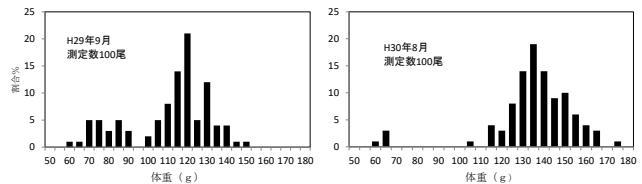


図2 女川魚市場に水揚げされたサンマの体重



図3 昨年よりも太っている今年のサンマ

末永くサンマを利用するために

近年の不漁は海洋環境に影響される資源変動が主な要因と考えられていますが、日本沿岸にやってくる前に公海で漁獲する外国船の漁獲の影響も指摘されるようになりました。資源量が少ない時にたくさん漁獲すると、資源変動が減少期から増加期に向かう際の回復のスピードが遅くなります。このため、日本はサンマを漁獲する関係国との間で漁獲量の上限を設定するための合意形成に向けた努力を行っているところです。

※データ引用：水産庁ホームページ

(<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/180731.html>)

宮城県水産技術総合センター

ホームページ URL: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/>